

# 同窓生のコラム



## 流れ星とともに

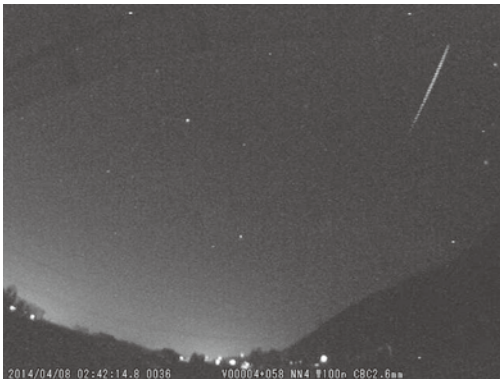
日本天文学会天文功労賞受賞

高28回 下田 力



振り返ってみると、県陵在中は決して真面目な学生ではありませんでした。授業は上の空で落ちこぼれ、放課後の部活のことばかり考えていました。高校では流星観測を思い切りしたいと思っていました。所属していた地学部は「第2山岳部」とよばれて体力強化もあり、春と夏の鉢伏山合宿は過酷でした。

それまでずっと星ばかりを見ていた私は、気象観測や地質調査などのフィールド調査は新鮮で、自然の中に身を置いた山での生活はとても楽しく、地学部での活動が自然科学の視野を広げてくれました。県陵の空気と顧問の千村重平先生が私たちを自由に泳がせてくれたことから、いろいろなことを試すことができました。先輩や同期には、今も地学の分野で活躍している人が多く、恵まれた3年間だったと思います。



大学に入ってから本格的に流星観測を始め、一時は星の世界で生活していきたくとも思いませんでしたが、現実には地面を見て過ごす地質調査を生業とするの時間になりました。それでも自分の時間には流星観測を続けることができ、途中やむを得ず中断する時期はありましたが、趣味

としてここまで続けてこられました。このような生活の中で、2014年4月8日未明に突然出現した新しい流星群（4月やぎ座α流星群）を、テレビカメラによる自動観測で最初に気づき、昨年春に日本天文学会から賞をいただくことになりました。流星観測は多くの観測者の協力によって成果が表れるものであり、最初に気づけたことは幸運でした。ただ新しい流星群の発見は偶然の出来事で、私の目的はまだ達成されていません。

日頃自然相手の仕事をしていくと、自然科学分野でのひらめきを養うには、若い時から自然に触れる経験が大切だと痛感しています。今の学生の皆さんにも、高校時代にできるだけ自然の中で何かを感じることができるといいかな、私たちは県陵の先輩として手を貸していければと思います。



白虹会 3年 杉本 萌恵

## 困難に打ち勝つ

強い心を持つとう！

— 県陵生へのメッセージ —  
高31回 林 勇次



新入学の季節になると、県陵に入学した時のことを思い出します。中学までと違って、少しの不安と恐れ、もちろんそれ以上に大きな期待をもって入学したあの時のワクワクドキドキした雰囲気は今でも思い出すことができます。

子供たちにしみじみと伝えたい思いです。年齢を重ねた今だからこそこの言葉の真意を少しは解けたように感じます。「真の学問は立身出世の為ではない、どんなに窮しても苦しまず、どんな憂いがあっても心が衰えず、何が禍で何が福なのか、その因果の法則を知り、困難や問題に直面してもあえて惑わらないためのものである。」

荀子の教えである「それ学は通の為にするに非ざるなり。窮して困しまず、憂えて意衰えざるが為なり。禍福終始を知って惑わざるが為なり」という教えをこれから勉学に向かうべき子

学問によって何故、困難や壁を乗り越えることができるのか、

## 県陵税理士会

会長 百瀬征男(高16回)

関東信越税理士会 松本支部所属  
会長以下31名

発足以来27年、毎年2月定期総会、研修・親睦に団結力は強く、研鑽に励んでいます。

## 勇屋会館

丸山庄一(高15回)三八会  
丸山英樹(高43回)

〒399-8205 安曇野市豊科4480-12  
TEL 0263-72-2020

予約フリーダイヤル

0120-020105

伝える、伝わる。あなたの想いを届けるパートナー。

創業明治43年

アサカワ印刷

浅川雅史(高11回)

浅川貴央(高41回)



〒399-0005 松本市野溝木工 1-6-34  
TEL.0263-25-5600 FAX.0263-25-3890

E-mail : asakawa-p@po.mcci.or.jp